

Paiza.ioを使った Pythonプログラミング

Paiza.ioへのログイン

下記URLへアクセス

<https://paiza.io>

ログインをクリック



Googleアカウントでログインをクリック

ログイン



※本人認証が行われる場合があります。

メールアドレス

Required

パスワード

Required

☐ 保存する



パスワード忘れはこちら
確認メールの再送信

※アクセスが拒否された場合は、いったんブラウザを全部閉じてから再試行してみてください

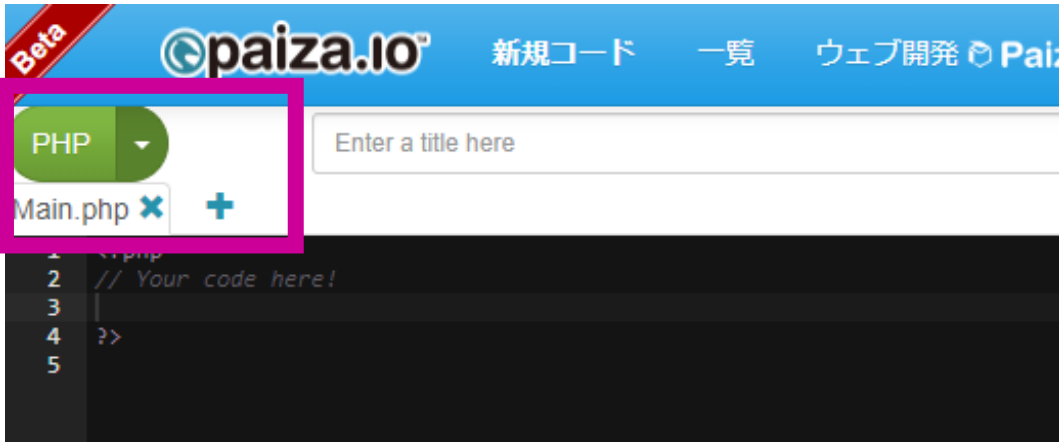
身長データを読み込む プログラムの作成

1) 新規コードをクリック



2) Python 3 編集モードに切り替える

「PHP」と書かれた左上のボタンをクリック



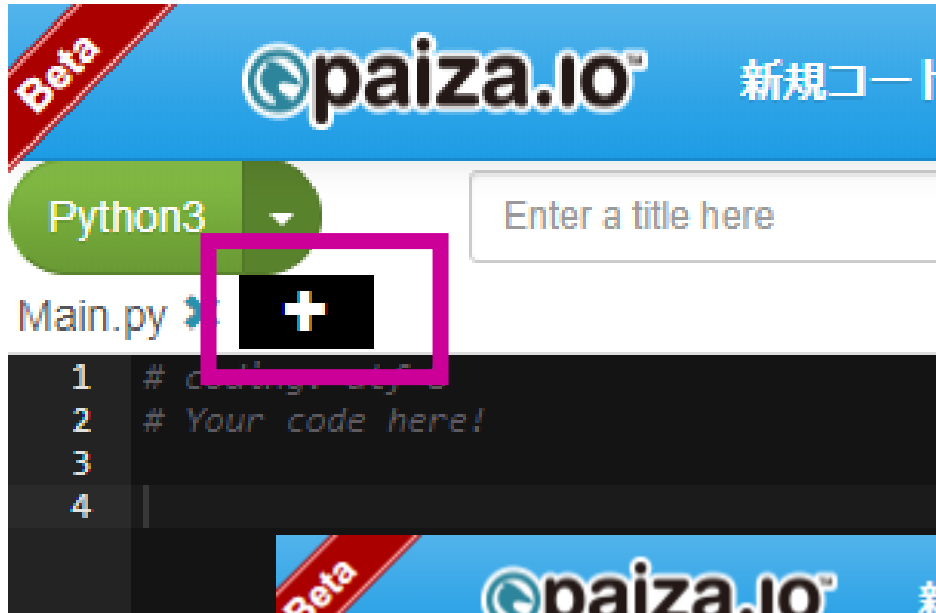
表示されたウィンドウでPython3を選択

ボタンがPython3に切り替わったことを確認

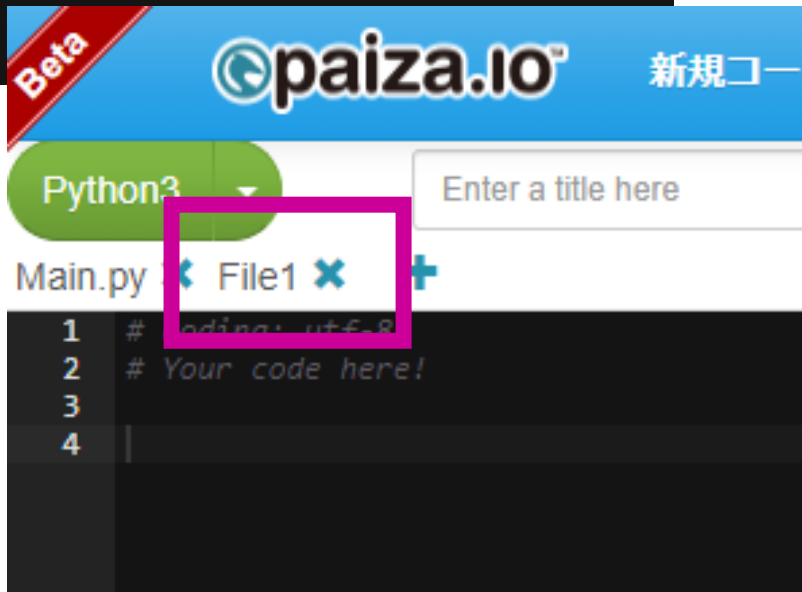


たまたま、ちゃんとPython3モードになっているか確認してください

3) データ入力用のファイルをpaiza.io上に作る

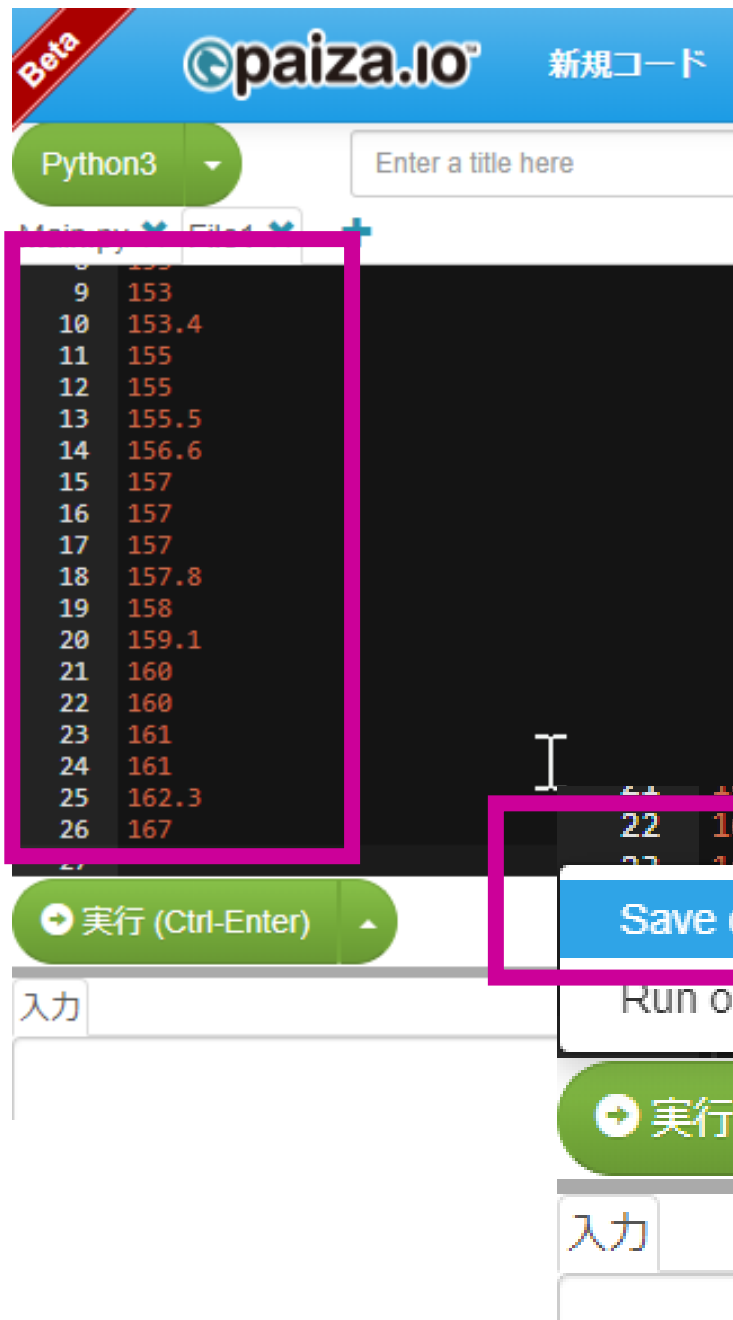


この「+」を押すと、



新たに「File1」というタブができる。

名前の変更も可能ですが、
ここではこの名前のまま
使います。



File1のタブをクリックします。

File1のウィンドウ内に、身長データ（数字）をコピー&ペーストします

「実行ボタン」の隣の三角形をクリックして、「Save only」を選択

これでデータがpaiza.ioに保存されました

Main.pyタブをクリックします



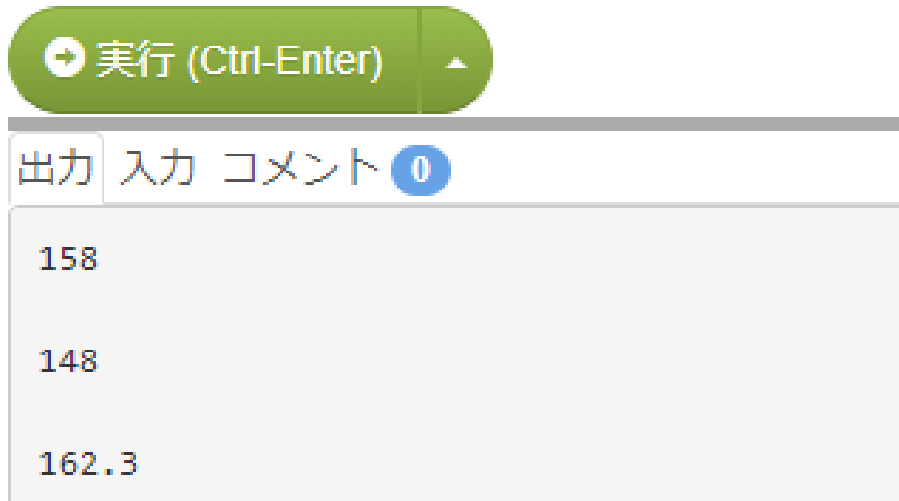
Main.pyを以下のように編集します

```
1  # coding: utf-8
2  # Your code here!
3
4  data = open("File1", "r")
5
6  for line in data:
7      print(line)
8
9  data.close()
10
```

openでファイルを開いて、dataで取り扱えるようにし、for～inで内容を一行ずつlineに読み込み、それをprintで画面上に表示するプログラムです。最後に使ったdataを閉じて終わり。

openの"r"は、読み込み(read)モードで開くことを意味しています。

「実行」ボタンを押すと、結果が出力画面に表示されます。



※データによって図の数値とは異なる場合があります。

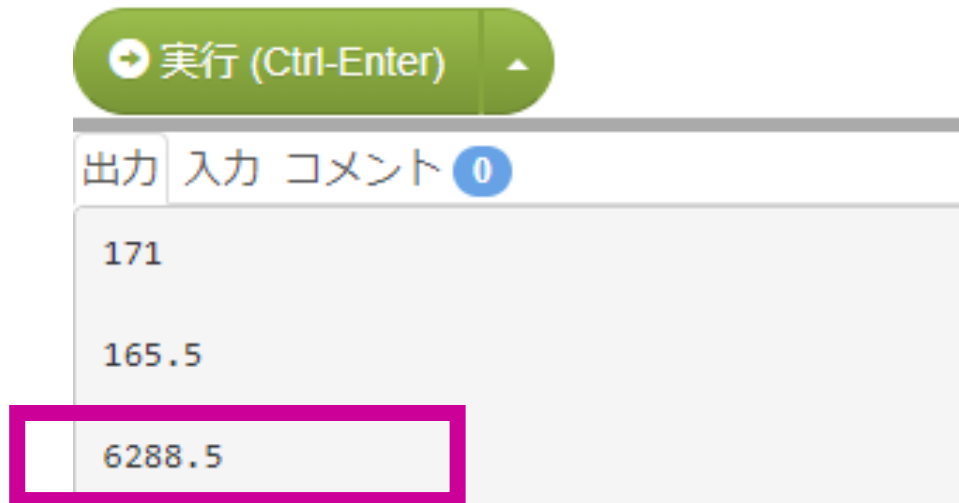
読み込んだデータの合計をだす

Main.pyを改良して次のように編集します。

```
4 data = open("File1", "r")
5
6 total = 0
7
8 for line in data:
9     total = total + float( line )
10    print(line)
11
12 data.close()
13
14 print( total )
15
```

合計を覚えておくための変数totalを作り（初期値0）、一行読み込まれるたびに自分自身に足してゆきます。floatは文字データとして読み込まれた身長のデータを数値データに変換する関数です。最後にtotalを表示して終了しています。

「実行」ボタンを押して結果を確認



※データによって図の数値とは異なる場合があります。

合計が表示されました。

平均を出すために、データの個数を数える

Main.pyを編集します。

```
4 data = open("File1", "r")
5
6 total = 0
7 num = 0
8
9 for line in data:
10     total = total + float( line )
11     num = num + 1
12     print(line)
13
14 data.close()
15
16 print( total )
17 print( num )
18
```

データの個数を覚えておくためのnum変数を作り、初期値0を設定しておきます。データが読み込まれるたびにnumを1ずつ増やします。

最後の画面に表示してみます。

「実行」ボタンを押して結果を確認



※データによって図の数値とは異なる場合があります。

個数が表示されました

Excelでの計算結果と一致しているか確認しましょう。

合計とデータの個数から 平均値を計算する

Main.pyをさらに改良します

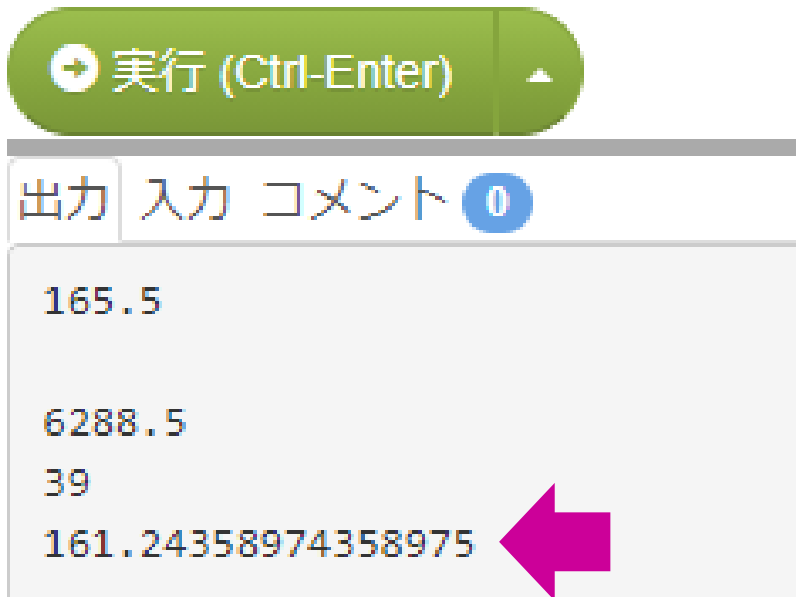
```
4 data = open("File1", "r")
5
6 total = 0
7 num = 0
8
9 for line in data:
10     total = total + float( line )
11     num = num + 1
12     print(line)
13
14 data.close()
15
16 print( total )
17 print( num )
18
19 ave = total / num
20
21 print( ave )
```

total÷numを計算して、それをave変数に保持します。

割り算（÷）は、「/」記号です。

最後にprintで画面に表示します。

「実行」ボタンを押して結果を確認



※データによって図の数値とは異なる場合があります。

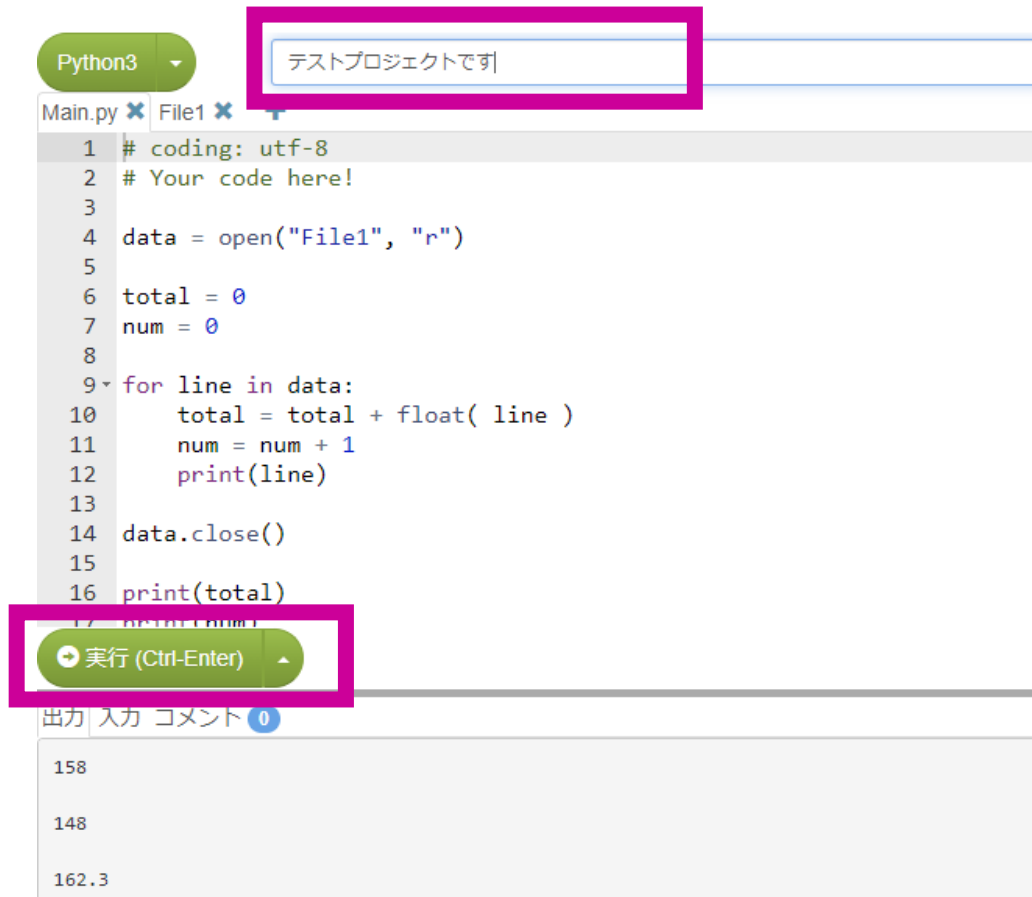
平均値が表示されました。

Excelでの計算結果と一致しているか確認しましょう。

完了

補足情報

プログラムの保存



プログラムには、適切なタイトル（日本語可）をつけることができます。

「実行」をするか、「Save Only」を行うと、プログラムは自動的にpaiza.ioに保存されます。

保存したプロジェクトの呼び出し

paiza.io 新規コード 一覧 ウェブ開発 プログラミング学習 日本語 望

Googleによる認証に成功しました。

おすすめ 自分のコード お気に入り 全て Gists

All Bash C C# C++ Clojure Cobol CoffeeScript D Elixir Erlang F# Go Haskell Java JavaScript Kotlin MySQL Objective-C Perl PHP Python2 Python3 Ruby Rust Scala Scheme Swift VB

Search

5 records found.

テストプロジェクトです (Python3) 3分前

```
1 # coding: utf-8
2 # Your code here!
3
4 data = open("File1", "r")
5
6 total = 0
7 num = 0
8
9 for line in data:
10     total = total + float( line )
11     num = num + 1
12     print(line)
13
14 data.close()
15
16 print(total)
17 print(num)
18
19 ave = total / num
20
21 print(ave)
22
```

一番上のメニューから「一覧」を選び、「Python3」を選択すると、保存されたプログラムが一覧されます。タイトルをクリックすると、編集画面に移動し、プログラミングを再開できます。

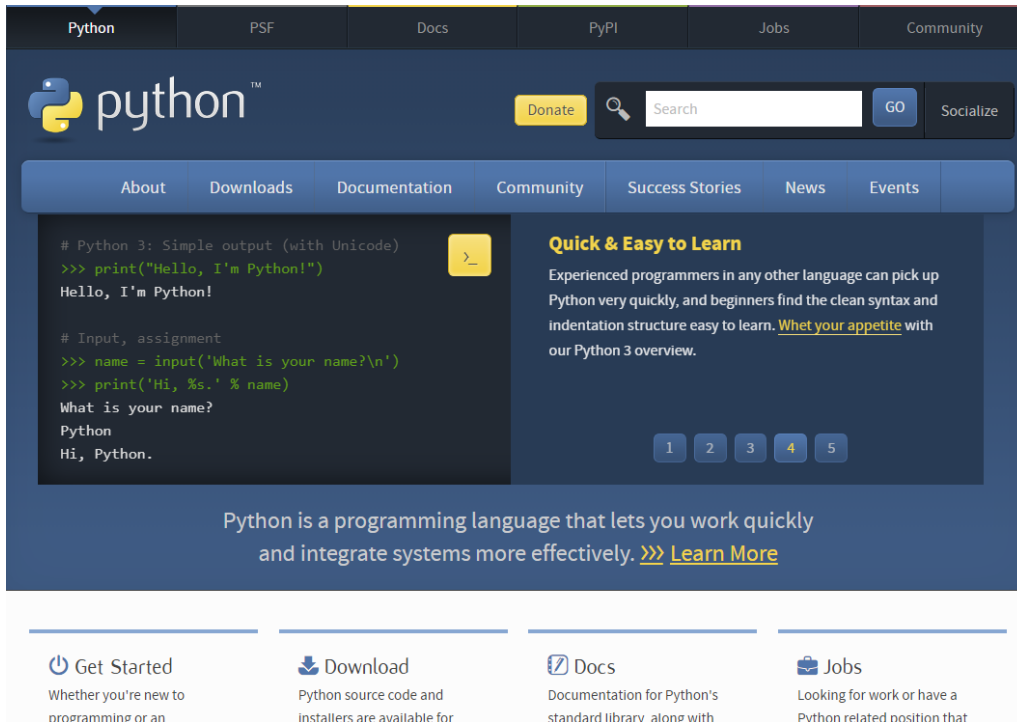
ちょっと本格的に
Pythonプログラミングを
やりたい

paiza.ioでは、プログラミングの基礎を体験することはできますが、ファイルを直接読み込んだり、計算した結果を「ファイル」で保存できないなど、いくつか制限事項があります。

少し本格的にPythonを使ってみたい場合は、自分のPCにPythonをインストールして使います。

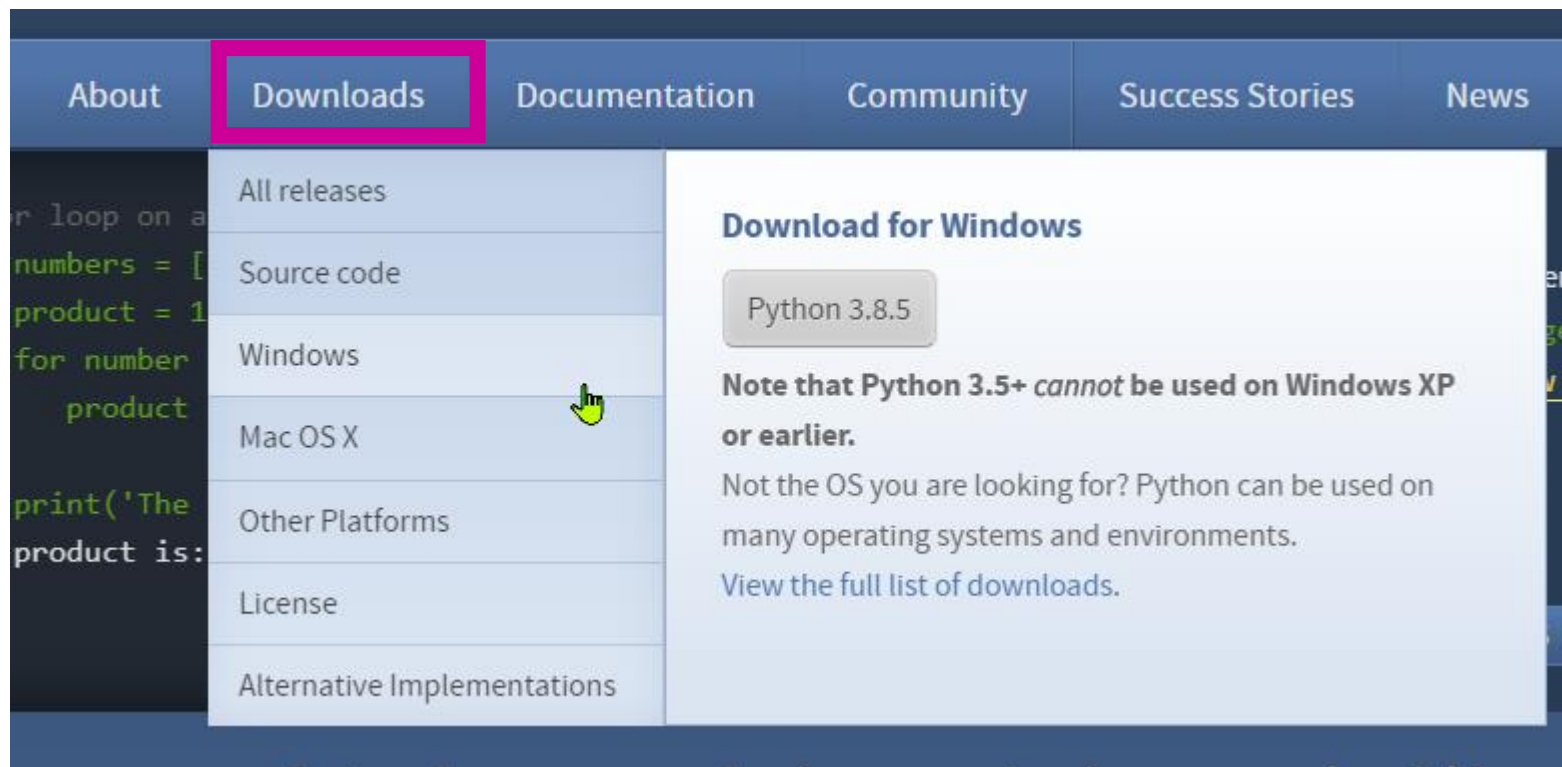
Pythonのインストール

<https://www.python.org/>



Pythonのサイトに行きます。

Pythonのインストール

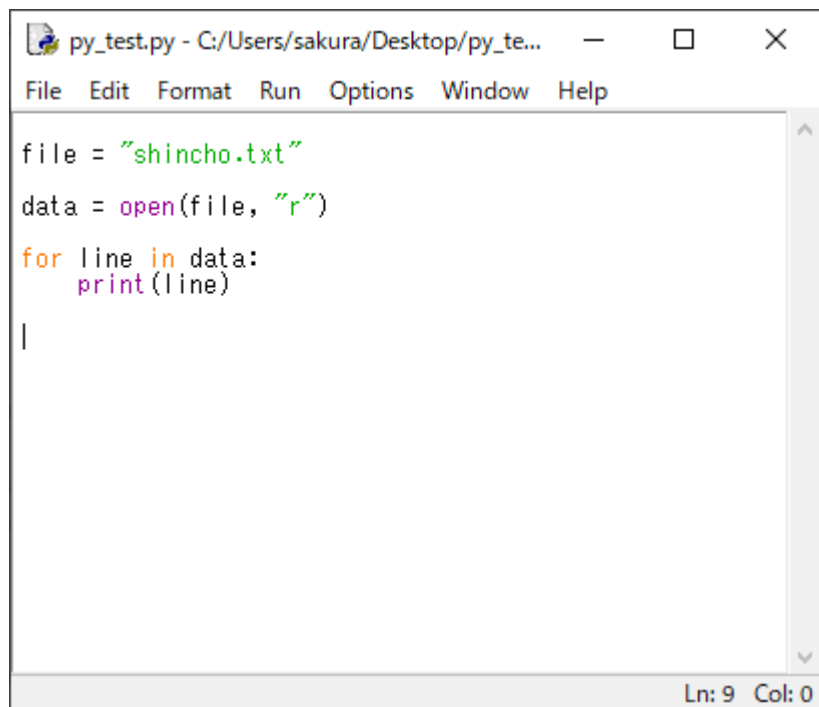


自分のPCのOSに合ったインストーラーをダウンロードします。

現在Pythonには、バージョン3.x系と2.x系がありますが、3.x系の最新版で特に問題ありません。

詳しいインストールの仕方、セットアップは、ネット上で情報を探してください。

Windows, Mac OSにインストールすると、IDLEと呼ばれる下記のようなコード編集ツールと一緒にインストールされます。



```
file = "shincho.txt"
data = open(file, "r")
for line in data:
    print(line)
|
```

見やすいコードの色分け表示をしてくれたりなど、効率的にプログラミングができます。

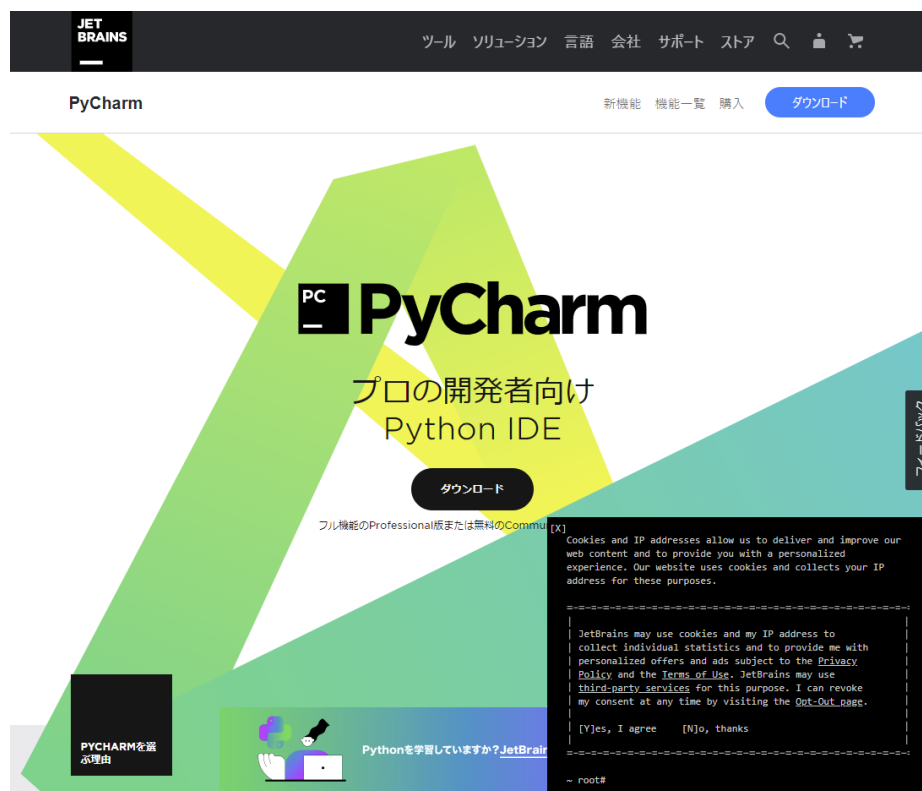
IDLE画面

さらに実践的に
プログラミングがしたい

Pythonプログラミングを実践で使用してゆく場合は、高度なコード管理機能などがついた「開発環境」ソフトを使うと、効率よい開発が行えます。

おすすめのひとつが「PyCharm」です。

<https://www.jetbrains.com/ja-jp/pycharm/>



プロ向けの機能までたくさんついているため、いきなり使いこなすのは難しいですが、関係するコード間を行き来したり、変数名を一気に変えたり、エラーを事前に教えてくれたり、コードを補完してくれたりと、実践的な開発には欠かせない機能が揃っています。